

アデムウォール積算要領

[標準タイプ]

2025 年 7 月

アデムウォール協会

目 次

1.	適用基準	1
2.	適用範囲	1
3.	施工概要	2
4.	使用する施工機械	3
5.	基礎工	4
5.1.	コンクリート工	4
5.2.	型枠工	4
5.3.	目地板設置工	4
5.4.	基礎碎石工	4
6.	補強土壁工	4
6.1.	補強土壁壁面材組立・設置工	4
6.2.	補強材取付工	4
6.3.	まき出し・敷均し、締固め工	4
6.4.	碎石投入工	5
6.5.	目地板設置工	5
7.	構造物背面工	5
7.1.	流出防止材設置工	5
7.2.	吸出し防止材設置工（構造物接続部）	5
8.	排水工	6
8.1.	基盤排水層	6
8.2.	水平排水材	6
8.3.	天端排水材設置工	6
8.4.	凍上抑制層	6
8.5.	吸出し防止材設置工（基盤排水層）	6
9.	笠コンクリート工	7
9.1.	コンクリート工	7
9.2.	型枠工	7
9.3.	目地板設置工	7
9.4.	鉄筋工	7
10.	足場工	7

1. 適用基準

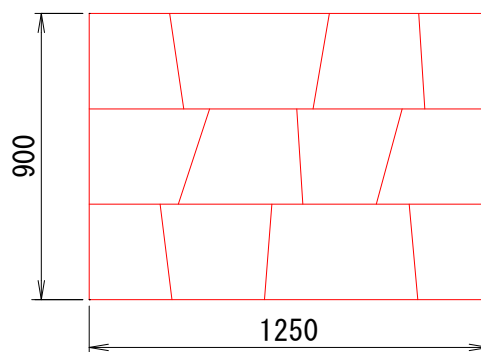
本資料は、アダムウォール（補強土壁）の標準タイプに適用する。

2. 適用範囲

アダムウォール（補強土壁）における壁面材・補強材の仕様

工種	アダムウォール（補強土壁） 標準タイプ
標準壁面形状	0.9m × 1.25m (高さ×長さ)
補強材	ジオテキスタイル
壁面材強度	30N/mm ²

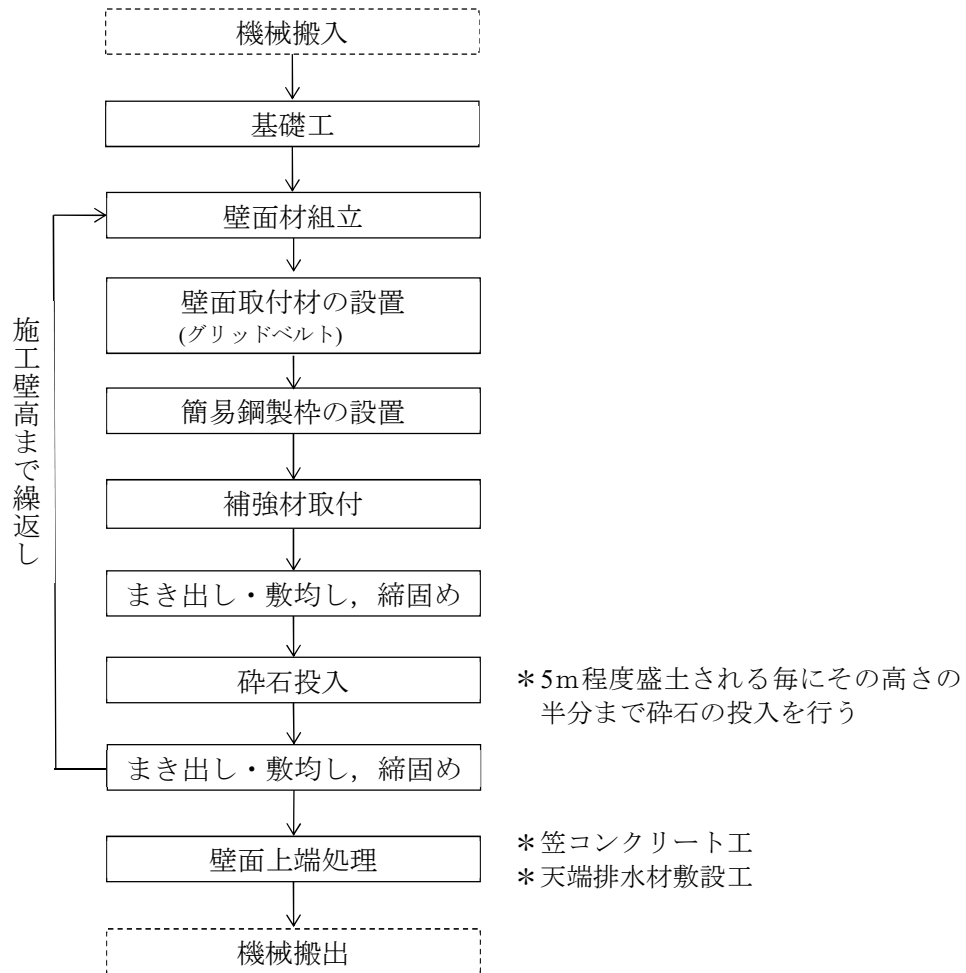
参考図 標準壁面形状



注) 参考図に示したのは、標準壁面形状である

3. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



*本歩掛に対応しているのは、実線枠部分のみである。

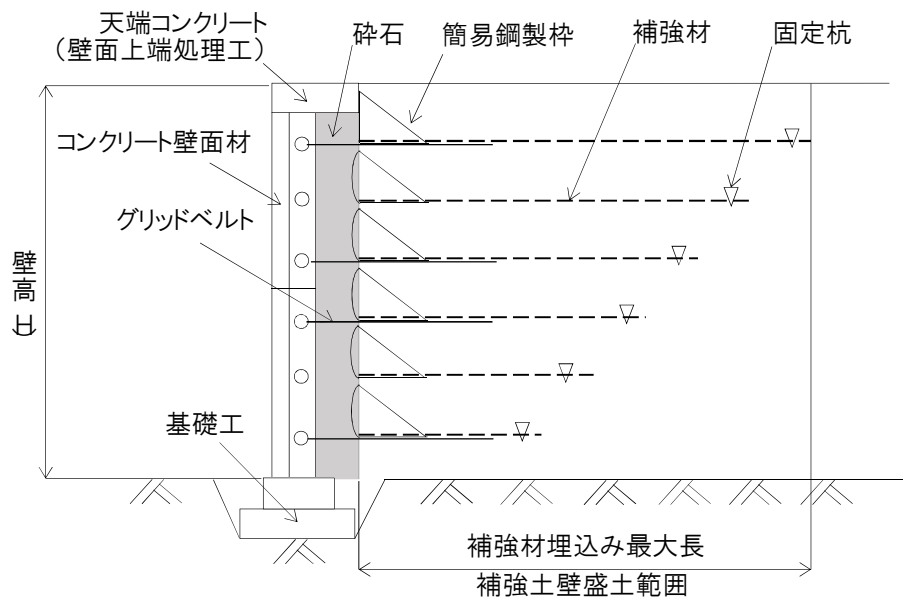
4. 使用する施工機械

壁面材の組立・設置、まき出し・敷均し・締固めおよび碎石投入に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 4-1 機種を選定

工種	施工機械
壁面材組立・設置	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)]山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)吊能力 2.9t
まき出し・敷均し	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)]山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)吊能力 2.9t
締固め	振動ローラ(舗装用)[搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)] 運転質量 3～4t
碎石投入	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)]山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)吊能力 2.9t

- 注) 1. バックホウおよび振動ローラは賃料とする。
 2. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途機種・規格を選定する。
 3. 施工量の範囲は、壁面上端までと補強材後部までの盛土を対象とする(下図参照)



標準断面図(参考図)

5. 基礎工

5.1. コンクリート工

コンクリート工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編5章. コンクリート工①コンクリート工 4-1 コンクリート」(施工パッケージ型)に準拠する。

5.2. 型枠工

型枠工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編5章. コンクリート工②型枠工 3-1 型枠」(施工パッケージ型)に準拠する。

5.3. 目地板設置工

目地板設置工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工②目地・止水板設置工」(施工パッケージ型)に準拠する。

5.4. 基礎砕石工

基礎砕石工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工②基礎・裏込砕石工 3-1 基礎砕石」(施工パッケージ型)に準拠する。

6. 補強土壁工

6.1. 補強土壁壁面材組立・設置工

補強土壁壁面材組立・設置工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工⑨補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁, ジオテキスタイル補強土壁) 3-1 補強土壁壁面材組立・設置(1)条件区分 ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ)」(施工パッケージ型)に準拠する。

6.2. 補強材取付工

補強材取付工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工⑨補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁, ジオテキスタイル補強土壁) 3-3-2 補強材取付(ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ))」(施工パッケージ型)に準拠する。

6.3. まき出し・敷均し, 締固め工

まき出し・敷均し, 締固め工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工⑨補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁, ジオテキスタイル補強土壁) 3-5 まき出し・敷均し, 締固め(1)条件区分 ジオテキスタイル補強土壁(二重壁タイプ)」(施工パッケージ型)に準拠する。

6.4. 碎石投入工

碎石投入工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工⑨補強土壁工（帯鋼補強土壁，アンカー補強土壁，ジオテキスタイル補強土壁）3-7 碎石投入」（施工パッケージ型）に準拠する。

6.5. 目地板設置工

目地板設置工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工⑫目地・止水板設置工」（施工パッケージ型）に準拠する。

7. 構造物背面工

7.1. 流出防止材設置工

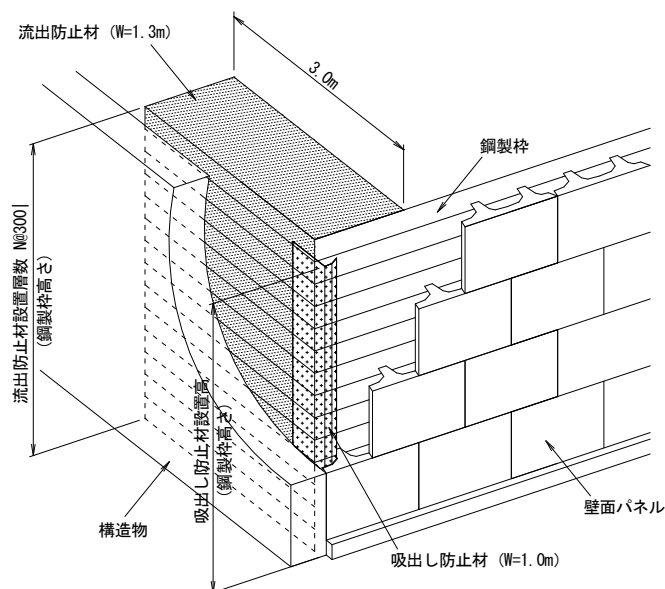
構造物背面における流出防止材の設置に関する歩掛は以下のとおりとする。

表 7-1 流出防止材設置工（100 m² 当り）

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.06
普通作業員	人	0.30

7.2. 吸出し防止材設置工（構造物接続部）

構造物接続部における吸出し防止材の設置に関する歩掛は、表 7-1 のとおりとする。



構造物接続部

8. 排水工

8.1. 基盤排水層

施工費は敷均し・締固め工を含む。碎石の材料費のみ計上する。

基盤排水材（碎石）の使用量は次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^3)$$

表 8-1 ロス率 (K)

材料名	碎石
ロス率	+0.20

(*国土交通省土木工事積算基準 3 章共通工②基礎・裏込碎石工 3-1 基礎碎石)

8.2. 水平排水材

盛土内の浸透水の排除を目的とする水平排水材の設置は、まき出し・敷均し、締固め工に含まれる。
排水材の材料費のみ計上する。

排水材の使用量は次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{m})$$

表 8-2 ロス率 (K)

材料名	排水材
ロス率	+0.01

注) 1. ロス率は、排水材の長さつなぎを含む。

8.3. 天端排水材設置工

天端排水材設置工に関する歩掛は吸出し防止材設置工と同じ作業であるため、吸出し防止材設置工に関する機労材規格 国土交通省土木工事積算基準「第 5 編 3 章. 共通工②吸出し防止材設置工」(施工パッケージ型)に準拠する。

8.4. 凍上抑制層

施工費は敷均し・締固め工を含む。碎石の材料費のみ計上する。

凍上抑制層に用いる材料（碎石）の使用量は次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^3)$$

表 8-3 ロス率 (K)

材料名	碎石
ロス率	+0.13

(*国土交通省土木工事積算基準 3 章共通工③コンクリートブロック積(張)工 3-11 胴込・裏込材(碎石))

8.5. 吸出し防止材設置工（基盤排水層）

吸出し防止材設置工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第 5 編 3 章. 共通工②吸出し防止材設置工」(施工パッケージ型)に準拠する。

9. 笠コンクリート工

9.1. コンクリート工

コンクリート工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編5章. コンクリート工①コンクリート工 4-1」（施工パッケージ型）に準拠する。

9.2. 型枠工

型枠工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編5章. コンクリート工②型枠工 3-1 型枠」（施工パッケージ型）に準拠する。

9.3. 目地板設置工

目地板設置工に関する機労材規格は、国土交通省土木工事積算基準「第5編3章. 共通工②目地・止水板設置工」（施工パッケージ型）に準拠する。

9.4. 鉄筋工

鉄筋工は、市場単価の適用を標準とする。

10. 足場工

足場工は、必要に応じて計上する。

アデムウォール積算要領

2015 年 5 月 初版発行

2016 年 6 月 第二版発行

2021 年 9 月 第三版発行

2022 年 6 月 第四版発行

2025 年 7 月 第五版発行

編集発行

アデムウォール協会

事務局 東京都港区芝公園 2-4-1
芝パークビル A 館 12F

前田工織株式会社 東京本社内

TEL03-3578-3278 FAX03-6402-3945

<https://www.adamwall.jp>